

第4回県かこ県民フォーラムの開催 テーマ 「血管がつまる」

11月10日(土)加古川総合文化センターにおいて第4回 県かこ県民フォーラムを開催しました

薬剤部 藤原 康浩



血管が病気になって、血液が流れにくくなれば、幹線道路で交通渋滞が起きたと同じこととなります。栄養分も老廃物も運べず、物質の輸送がストップし、その場所が重要臓器であれば早急に対処しなければならないという深刻な事態が生じてしまいます。

平成23年の死亡数・死亡率(人口10万対)を死因順位別にみると、第1位は悪性新生物、第2位は心疾患、第3位は肺炎、第4位は脳血管疾患となっています。(図1)

そして、主な死因の年次推移をみると、心疾患(その内約40%は虚血性心疾患)は、死亡数・死亡率ともに上昇傾向にあり、平成21年に減少したものの、平成22年から再び上昇し、平成23年の全死亡者に占める割合は15.5%となっています。脳血管疾患は、昭和45年をピークに低下しはじめ、平成23年には、肺炎にかわり第4位(全死亡者に占める割合は9.9%)となったものの、寝たきりになる原因の中で脳血管疾患が全体の17.7%を占め、最大の原因になっています。さらに、脳血管疾患の中では脳梗塞の死亡率が上がり患者数も急増しています。また、手足の末梢血管がつまることにより様々な皮膚症状を呈し、循環障害が進むと、安静にしている時の血液の量さえもまかなえなくなり、常に痛みを感じるようになり、ついに壊疽(えそ)をきたすようになってしまいますから、細心の注意が必要です。

そこで、今回のフォーラムでは加古川医療センターの臨床経験豊富な3人の先生方から、それぞれの専門分野における血管の閉塞に関する知識と経験をわかりやすく解説してもらいました。県民の皆様がこれまでの生活習慣を今一度、見直す機会になればと思いました。

以下は講演の簡単な内容を記載しています。



会場の外では栄養指導も行いました

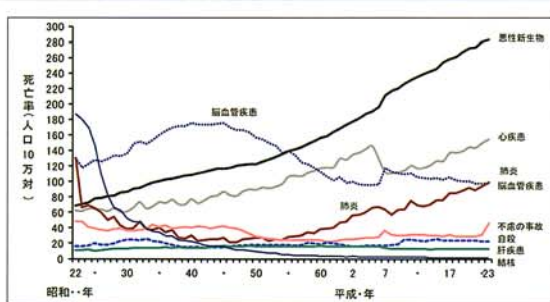


図1 主な死因別にみた死亡率の年次推移
(厚生労働省 平成23年 人口動態統計の概況から)

講演①

足の皮膚症状からみた血管の病気あれこれ

血管病変を疑う皮膚症状は、①皮膚の傷がなかなか治らない②足先が冷たい・痛い③歩くと痛みが出る④足のむくみが強いなどで、この順で特に注意が必要となる。また、末梢動脈病変を有する患者は脳梗塞、心筋梗塞のリスクが高いとのことで皮膚症状と血管の疾患が密接に関係しているとのことでした

講演②

知っていれば恐くない、心筋梗塞の予防法

自分に虚血性心疾患になりやすい要因がいくつあるのかを認識し、治療や生活習慣の改善に努め、自分の動脈硬化の進行状況を簡単な検査を受けて把握しておくこと、また、虚血性心疾患の症状を知り、何らかの胸部症状が起こったときには速やかに適切な対処ができる様にしておくことが大事であるとのことでした。

講演③

脳梗塞にならないためには?なったら?

脳梗塞の発症の危険因子、発症時の症状と対処法、退院時の状態、急性期の投薬やカテーテルによる治療、抗血小板剤の服薬や脳ドックに関する予防法などについてクイズ形式でわかりやすく講演してもらいました。

1: 血管病変を疑う皮膚症状ってなに。

- ①、足先が冷たい、または痛い。
- ②、むくみが強い。
- ③、歩くと痛みが出る。
- ④、皮膚の傷が治らない、など・・・

虚血性心疾患とは?

